

西南女学院大学・西南女学院大学短期大学部

地域活動論叢

2020 年度



大学公式キャラクター
かなめ
要ちゃん

とどけ！ぬくもり
要（かなめ）から

目 次

巻頭言 地域連携室室長 今村浩司	1
地域連携活動の発展について 学長 工藤二郎	2
「花園に、山姥？4」 地域連携室アドバイザー 石丸美奈子	6
西南女学院大学と西南女学院大学短期大学部の地域貢献活動の概要	13
《子ども・子育て支援と学校教育》	
1. 一緒にあそぼう	14
2. いぼりの森の《みんな、だぁ～い好き!!》“みんな♪フレアイ隊”	15
3. zoomで繋ぐ、楽しい音楽あそび	19
2020年度地域連携室の取り組み	
1. 2020年度後期北九州市民カレッジ	25
2. フードドライブキャンペーン	27
3. 広報活動（ブログ・小学生向けパンフレット作成）	28
新聞記事に見る 地域連携室2020年度の歩み ～地域連携室の足跡～	30

巻 頭 言

西南女学院大学・西南女学院大学短期大学部
地域連携室 室長 今村 浩司
(大学 保健福祉学部 教授)

2020 年度も、「地域活動論叢」を関係の皆さまのお手元にお届けすることができました。これもひとえに、関係の皆さまのご理解とご協力があったからこそ、心より感謝申し上げます。

さて、本学はキリスト教に基づく女子大学として、女性が活躍する社会の形成を目指し、そしてそれに対して自覚的に取り組める人材育成に取り組んでいるところです。そのため教育課程と学生支援の充実にとどまらず、地域住民の皆さまの健康と福祉、子育て支援、産業と地域の活性化等につながる多くの地域貢献活動を実践しています。当然ながらこれらの活動は、学生たちにとって貴重な学びの場にもなっています。

本学では、2016 年 8 月に、学長直属の部局横断的組織である地域連携室を設置し「地域に根差し、地域とともに歩む大学・短期大学づくり」に向けて、地域貢献活動の環境整備等を進め、約 4 年半が経過しました。今年度はコロナ禍の中、様々な制限があったにもかかわらず、数は多くはありませんが、地域貢献活動が展開されました。本論叢には、2020 年度の本学におけます地域貢献活動や地域連携室の取り組みをまとめております。通算第 4 号であり、関係の皆さまに是非ご覧頂き、率直なご意見を頂戴できますれば幸甚に存じます。

本学の地域連携室の役割は、以下の 3 点まとめられています。

- ① 地域の皆さまに、私たち学生・教職員は何をしている（しようとしている）か、コンタクトをとるにはどこに連絡したら良いかを知っていただくこと
- ② 本学の学生・教職員に、本学が地域の皆さまにどのように見えているか、地域の皆さまに何を求められているかを伝え、つながる機会を提供すること
- ③ 学生・教職員と地域の皆さまの協働が広がり、深まっていく環境を提供すること

この 3 点の役割をしっかりと再認識して、引き続き更なる活動の発展を目指して参りたいと思っております。

前述しましたように、2020 年度はコロナ禍の中、たくさんの活動が中止せざるを得ない状況になってしまいました。しかしながら、このような時代だからこそ取り組んでいける地域貢献活動を考えながら、一步一步確実に歩みを進めて、今以上に一体感を醸成させながら邁進できればと思っております。関係の皆さまの更なるご理解とご協力を、心よりお願い申し上げます。

最後になりましたが、本学のこの地域連携室の設置にご尽力頂きました工藤学長が本年度末を持ちまして定年退職をされます。ここにこれまでのお力添えに心より感謝申し上げます、引き続き質の高い地域連携活動を企画し取り組んで参ることをお約束致しまして、結びとさせていただきます。

地域貢献活動の発展について

学長 工藤 二郎

私は本年度で定年退職となるため、学長在任時に発足し発展してきた地域連携室について記録を残すことも重要と考え引き受けた次第です。

1993年、西南女学院大学初代学長の高木俊一郎先生によって、西南女学院大学の設置趣旨が起草されました。その第3項目に「専門職の育成」として、「本学は、看護学科と福祉学科の連携を密にした保健福祉学部として、その融和と調和のある、治療、教育、生活指導、さらに多様な社会文化的状況に柔軟に対応し、地域社会の中核となって活躍する意欲と専門性を備えた人材の育成を目指す。」として、卒業生が地域社会の中核を担うべきことが明記されました。1994年の大学開学以来、看護・福祉の専門家により地域貢献活動がすすみ、あらたな学科の設置があった後も2014年頃までは地域貢献活動のほとんどが教務部によって把握されておりました。しかし、栄養学科、人文学部、短大部、助産別科などの地域貢献活動が活発化し、全体像が把握できにくくなり、貴重な地域貢献やその反省などが伝えられず、また、予算措置もないままに他機関の助成金や研究費を使ったプロジェクトが行われ続けることになっていたため、2015年に「将来計画 2016～2018年度」の中で、本学が進むべき方向の1つとして「地域に根差し、地域とともに歩む大学・短期大学づくり」を掲げました。



このような動きの中で、2016年8月に「地域連携室」を開設し、ここを軸に本学における学生の教育活動の一環としての地域貢献活動が開始されました。地域連携室は、地域貢献活動計画の立案、実施及び学内外との連絡調整、広報等の業務を担います。地域連携室員として、各学科の地域連携の専門家である若い教員たちが加わり、初代の室長を福祉学科の谷川弘治教授が務めてくださり、また、副室長を現在の室長の今村浩司教授が務めてくださいました。地域連携室の管理運営組織として、「地域連携室運営協議会」が設置され、地域貢献活動計画の立案・評価、地域諸団体等との連携関係の構築などを審議してきました。こちらの構成員は、学長、保健福祉学部長、人文学部長、短期大学部長、入試部長、教務部長、学生部長及び事務部長です。さらに、伊東幸雄参

事と樋口真己室員が最初から会議を担ってくれました。発足以来、月1回のペースで地域連携室員会合と地域運営協議会会合が続けられております。

当初、学生の教育活動の一環とするものをピックアップしてリスト化すると、学生の貢献がすばらしく、「観光と地域活性化」に含まれるものが6件、「子ども・子育て支援と学校教育」に含まれるものが5件、「食と健康」に含まれるものが4件あり、計15件ものプロジェクトが走っていることがわかりました。2016年の活動の詳細は「地域貢献活動報告書」に記載され、この報告書をもとに、地域貢献活動や研究を発表する地域交流会を開催し、また、自治体、地元企業・施設などの代表の方々との地域懇談会を開催して種々のアイデアの交換をしました。この年間の流れは2016年から2019年にかけて大きな変化はありません。

2017年度に入ると、正式に予算措置が可能となりました。さらに、地域連携室アドバイザーとして、著名なコピーライターの石丸美奈子氏が着任、地域連携の全ての会議やイベントに参加され、彼女を介して多様な職種の方々との接触が可能となりました。さらに、広報担当の浅野嘉延教授が学生の投稿を促し、まず、キャッチコピーを「とどけ！ぬくもり要から」とし、また、イメージキャラクターを可愛い天使姿の「要(かなめ)ちゃん」に決定しました。夏にはNPOとの交流会、オープンキャンパスでの活動アピール、「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」の講演会として関西大学の江川直樹教授と関西大学佐治スタジオ研究員、地域アドバイザーの関谷大志朗氏による公開講演会を開催しました。この時の話し合いにより、チャペルやクリスマス礼拝を本学に好意的な多くの方々に公開することになりました。このような活動はこの年行われた大学機関別認証評価実地調査の独自基準Bに記載され、2018年初めに大学の認証評価は「認定」ということになりました。その他数え上げるときりはありませんが、クリスマス礼拝公開、北九州市と本学との包括連携協定、映画上映とアフタートークなどが行われ、学生と教員によってなされた活動は10件を数えました。そして、この年から全ての活動が「地域貢献活動報告書」に変わって「地域活動論叢」の名称のもとにまとめられ、大学の公式ウェブサイト上にも公開されるようになりました。

2018年度は順調に9件の地域貢献活動が運営され、全て盛況でした。ことに、特記したいのは女性活躍ワーキンググループの働きです。英語学科大谷浩教授を中心として、クリスマス礼拝での人文学部学生による英語及び中国語のスピーチ、学外の関係者の招待、世界で活躍する先輩たち(卒業生)のパネル展示、クリスマスツリーマップの開発など斬新な企画を実現させてくれました。この年の大学祭では、石丸美奈子アドバイザーの紹介でアーティストのわたせせいぞうさんの講演会がもたれ、学生が多く参画してく

れました。そのほか大学祭に合わせ、地域連携室学生スタッフデザインによる要ちゃんTシャツの作成と販売、大学祭の野外ステージでの地域貢献活動紹介、地域貢献活動の紹介を兼ねた射的コーナーの運営などが行われました。また、初めての取り組みとして市民の多様な学習ニーズに対応した生涯学習機会を提供し、自己実現の促進を図ることも目的に、後期北九州市民カレッジを開講することになりました。この市民カレッジは毎年継続し実施することになりました。ところが、この年度末に全ての活動を率いてくださった谷川弘治室長、事務を支えてくださった伊東幸雄参事、さらに職員の神山純枝さんが退職され、大きな欠落感を感じたのでした。

2019年度は第2代の室長に福祉学科の今村浩司教授が就任し、事務は五十嵐勝事務部長が支えてくださることになり、さらに、職員として大谷芳子さんが着任しました。この年度の地域貢献活動は当初より終わり近くまで、きわめて順調でした。詳細は大学公式ウェブサイトの「地域連携室」の中に、2019年度の地域活動論叢の欄があるのでご覧ください。活動は「子ども・子育て支援と学校教育」4件、「食と健康」4件、「観光と地域活性化」4件と計12件が行われました。せめて活動の名称だけでもあげさせていただき、感謝の意を表したいと存じます。なされた企画は「生き生きチャレンジキッズ」「一緒にあそぼう」「いぼりの森の《みんな、だぁ～い好き!!》“みんな♪フレアイ隊”」「だいすきにつぼん」「SAT システムを使った食事診断法」「『食と健康』に関する地域密着型食育活動の展開」「地域住民の運動と栄養に関する栄養相談や食事指導の支援活動」「尿漏れを予防しよう」「北九州市クルーズおもてなしイベント」「小さな森の小さな音楽会」「とばた菖蒲まつり 高校・大学 PR ブースの出展」「『手づくり市場 in 北九州 2019』でのブースの出展」でした。これらは全て盛況で、持続可能な開発目標（SDGs）の一翼を担い、企画・実行された方々の奉仕精神は心から尊敬の念を抱かせるものでした。

2020年に入り、2月末になるとわが国でも新型コロナウイルスの感染者がみられるようになり、2019年度の地域交流会と地域懇談会は中止となりました。それでも2月半ばに北九州市の「未来予想図・若者関連政策提案」発表会に、学生、今村室長、石丸アドバイザーが参加できました。



2020年度は、新型コロナウイルス感染のため制限された活動状況となりました。2019年度の「地域活動論叢」は石丸アドバイザーに持参・配布していただいたものを除き、すべて郵送となりました。4月に政府により新型コロナウイルス感染の「緊急事態宣言」が発出され、大学は5月から前期の全期間を通じて遠隔授業を続けることを決定しました。したがって地域貢献活動はほぼ教員主体で、縮小された規模で行われました。それでも、フード・ドライブキャンペーンを複数回行って食物を寄付したり、小学生のための大学紹介パンフレット「大学ってどんなところ？」を作成し配布したり、短期大学部保育科学生による井堀市民センターでの活動の一環として、子供のための動画作成と配信が行われ、KANAME杯英語スピーチコンテスト、YouTubeチャペルも一緒に新聞に掲載されました。また、毎日新聞主催の「学びシティ！北九州」には浅野副学長が参加され本学の新型コロナ対策、地域貢献活動について紹介されました。以上ご紹介しましたが、本年度の活動は来年度に順延されていくと考えられます。

地域と歩む大学の今後の活動について一言だけ述べておきたいと思います。基本は建学の精神の「感恩奉仕」です。すでに西南女学院の発足まもなくより、病院および刑務所慰問や歳末の街頭募金など多彩な活動が行われていました（70周年記念誌 p177）。私が赴任してからも阪神・淡路大震災や熊本地震への学生の救援活動など、驚くべき奉仕があり、現在も学生・教職員のボランティア活動が続いております。これは「感恩奉仕」が受け継がれているためであり、今後も受け継いでいくべきであると思います。その次は教員・職員がそれぞれ専門を深く追求して社会とのつながりを自覚し、そのことを学生に伝えることが大切ではないかと思えます。さらに、地域と歩むには北九州市と足並みをそろえる必要があると思えます。市の催しには十分準備して参加することが大切です。市は持続可能な開発目標（SDGs）を掲げ、内閣府から「SDGs 未来都市」に選ばれて活動を続けていますので、本学も参加して行くべきと思えます。

最後になりました。どうぞ本学の活動が地域に貢献し、地域とともに歩める大学として持続するよう心から祈っております。長い間私をお支えくださり、全力を尽くしてくださった皆様、本当にありがとうございました。



「花園に、山姥？ 4」

地域連携室アドバイザー 石丸 美奈子

ライフの消えた、キャンパス。

★

コロナに始まりコロナに終わった、2020年。

キャンパスに、学生の姿はなく。

静まり返った、シオンの丘。

★

それでも。

3月19日には、卒業式が行われた。

保護者は出席できず、密を避けるため、学科ごとではあったけど。

久し振りに、華やかな色と笑い声が溢れた。

こんな時でも、袴姿+ヘアメイクは、ばっちり。ピース。

教職員感涙。

門の外には、花束抱えた、出待ち王子たちも健在。ラブ。

さすが、西南。これぞ、西南。

★

入学式と、創立記念日式典は、中止になった。

新一年生必修の、チャペルも。

讚美歌が聴こえない、マロリーホール。

授業は、オンラインに。

食堂も図書館も、ひっそり。

構内の掃除と庭木の手入れは、黙々と行われた。

★

オンライン講義の参観させていただきませんか？

アドバイザーのムチャ振りに、10名のセンセイ方が手を挙げ。

教育支援職員（地域連携室室員）が、バンバン段取り。

各研究室へお邪魔することに。

IT得意不得意。従来の対面用教材をリモート仕様に。

なんせ、初めての経験だからね。

教える側も、手探りで。

いつもより声を張り滑舌意識し、機器の操作、画面上でのやり取り反応集中・・・。



小休止しよう、みんな軽くストレッチして、窓を開け換気して。

ここで、グループに分かれ、話し合っ。順番に覗くからね。

はい、これについての意見は。〇〇さんは、どこ行ったかな。

繋がりにくい？いま入った？OK.

学生たち。

こちらは、デジタルネイティブ。

ノーメイク+部屋着で映りたくない子は、頭のとっぺんとか体の一部分で参加表明したり、似顔絵・イニシャル派も。

飼ってる猫（キャベツという名前でした）が、クラスのアイドルになってたり。

二年生以上は、まあ、なんとか。

それでも、会えないのは寂しいね。ニンゲンカンケイとかツウガクとか煩わしくなくてラッキーな部分もあるけど。

バイトができないのは困ったね。

オンライン模擬面接も参観体験。就活は激変した。

★

オンラインチャペル始まりました（宗教主事！）。

オンデマンド、と言うのかな正確には。

登校できない学生たちに配慮して。

キャンパス+マロリーホール。季節の花々、スタンドグラス。構内の様子をたっぷり流し。

厳かに始まるチャペル。ピアノ演奏、讃美歌、奨励、そして、祈り。

イシマル、西南OGやネットワークにせっせと転送しました。

地元北九州もとより、東京大阪福岡大分佐賀長崎インド・・・。

毎週月曜のこのチャペルをオトナたちも楽しみに。

なんせ、暗いニュースばかりで。週一ココロの糧なんだよ。

★

保育科学生たちによる、ユーチューブも。

井堀市民センターで、幼児対象に行ってた活動を配信というカタチで。

お遊戯、読み聞かせ、お絵かき工作・・・。

それぞれの部屋から。自ら企画演出出演。

ステイホームで大変な子育て家庭を支援した。

一生懸命さが、画面からグングン、伝わってくる。スバラシイ！

指導教員、熱血バックアップ。

★



オープンキャンパスは、予約制で、行われた。

案内する現役学生、ワタシたち登校するの、2月以来なんです。と大張り切り。
ここが食堂で、デザートが充実etc. ここが図書館で、試験前は席取りが大変etc.
ここが実習室で、マロリーホールで・・・。

先輩、西南愛、てんこ盛り、ですよ。

10月1日には、半年遅れの入学式。

やはり保護者は出席出来ず、学科ごとだったけど（学長は都合6回祝辞を述べた、
教員による讚美歌独唱！も）。

新一年生にとっては、初キャンパス。

画面でしか見てなかったけど、大学だ同級生だ！ジツブツホンモノ、わーーい！！

教職員も、学生たちの元気な姿に、わーい！

テレビ局新聞社。メディアこぞって取材に。

彼らも、きっと嬉しかったんだね。

★

対面授業に戻り、シオンの丘に、日常が。

も、束の間。

11月初め、クラスター発生。

翌週から全6回にわたり予定されていた、今年度唯一の公開講座「市民カレッジ」が飛んだ。

構内再びロックダウンに。

担当職員ほぼ徹夜で対応。

副学長主導の、COVID19対策チームが、既に立ちあがっていたこともあり。

現役医師や看護学科を有し、保健所との連携も普段から。

PCR検査スムーズに進み、関係者全員陰性を確認。

あっという間に収束した。

学生を守ろう、大学を守ろう。これぞ西南。

★

そんななか、英語学科による、第二回KANAME杯が、オンラインで開催された。

全国の高校生対象にした、スピーチコンテスト。

一次をクリアした10名が本選出場。

事前に各校で収録した内容を、審査、当日各賞を発表しました。

カメラに向かって英語でプレゼンするという一段難しい状況だったけど。

みんな、上手だったよ。去年に続き、感心しきり。

英語力は勿論、環境問題SDGsへの関心高くて、ほんとうに、イマドキの若者は、立派です。



★

本学の二大イベント。

模擬店や様々な企画展、吉本芸人招いて賑わう、文化祭は中止になった。

クリスマス礼拝も。

今年度は、中高と合同で、オール西南での礼拝を、と計画してたようですが。

結局、オンデマンドで配信。

部屋で、ひとり、祈った。

★

2020年。

コロナ禍で、通常の地域連携活動は、ほぼできなかった。

それでも。

小学生向けの大学案内を作成。

看護福祉栄養保育観光英語。判り易く、イラスト多用し、漢字にはルビを。

メディアにも取り上げられ、すでに引き合いも。

イシマルは、4月以降、月に長短二本のエッセイを書き続けた（室員による挿絵も人気）。

教職員及びOG、ネットワークに向けて。

頑張ろう、一緒に、頑張ろうね。

★

2022年春には、100周年を迎える、西南女学院。

コロナは終息するのか、共生していくのか。

オンラインと対面、講義は、進化する。

実習は？イベントは？地域活動は？就活は？課題抱えつつ。

前に。

この学びが、キミたちの要になることを信じて。

今日も、ふうふう、花園を目指す。

ライフ煌めくキャンパスへ。ライフ煌めくキャンパスへ。

「山姥が、来たぞ〜」。



【石丸氏のプロフィール】



コピーライター

西日本工業大学評議員

北九州マラソン実行委員

コピーライターとしてのデビュー作は、マルショク・サンリブ「生活は生もの。」。八幡東区「響ホール」の名付け親でもある。

これまでにユニクロ、新日鉄、花キューピッド等の広告制作及び、北九州市（周年事業）福岡町(現・福津市総合計画)等自治体の広報を担当。

また、1987年北九州ミズ21委員就任をきっかけに30年にわたり、NHK九州沖縄地方番組審議委員、福岡県行政改革審議委員、

(公財)北九州市芸術文化振興財団理事他、観光振興・教育文化芸術振興・街づくり等の各委員会委員を歴任。

この15年ほどは、外部アドバイザーとして、北九州モノレール社外取締役、井筒屋アドバイザー、西日本新聞北九州本社アドバイザー、北九州市立大学広報アドバイザーに就任。

プライベートでは、毎年夏と冬に超異業種交流会（イシマル組）を主催。

著書に「夕刊を読む女。」がある。



2020年度は大学行事や地域活動が自粛されました。コピーライターであり過去に新聞に連載記事を掲載していた石丸アドバイザーに、贅沢にも教職員向けに毎月2本のエッセイを書いていただきました。エッセイにはその時期の社会情勢や流行の芸術・文化の様子が反映されております。行動の自粛を余儀なくされていた私たち教職員の毎月の楽しみになっていました！

- 4月 「ご近所散歩のススメ」「お部屋に花を」
- 5月 「うちで踊ろう」「マスクは苦手だ」
- 6月 「ステイホーム近況報告」「10万円の行方」
- 7月 「夏への扉」「GO TO WHERE」
- 8月 「STRAY SHEEP」「happy birthday to me」
- 9月 「ニューノーマル」「ローリングストック」
- 10月 「ライフ マスト ゴー オン」「ショウ マスト ゴー オン」
- 11月 「全集中」「カジュアルに生きよう」
- 12月 「シクラメンのかほり」「酒は泪か」
- 1月 「山を歩く」「街を走る」



西南女学院大学と西南女学院大学短期大学部の地域貢献活動（概要）

本学では感恩奉仕の建学の精神にもとづき、女性らしい豊かな人間力と専門的な実践力で社会に貢献する人材育成を目指しています。座学に加え、学生たちが自ら学外に出向き、さまざまな課題に向き合い、できることをみつけていくことを大切に参りました。これまでの学生参加の地域貢献活動を活動形態別にみますと次の6つに分けることができます。

- ① 市民公開講座：最新の知識・技術、生活の知恵などを提供する講義や演習
- ② 体験・アクティビティ：あそぶ、たべる、学ぶ、語り合うなどの体験型の企画
- ③ ピアサポートグループ活動：介護や子育ての悩みなどを参加者同士で受けとめ支え合うグループ活動
- ④ 提案とアクション：若い女性の視点を取り入れた商品開発や地域活性化への提案とアクション
- ⑤ 海外における貢献活動：アジア地域での地域貢献活動
- ⑥ そのほか

また、課題別にみると6つに分けることができます。

- ① 健康・食・運動
- ② 福祉・介護
- ③ 子ども・子育て
- ④ 学校教育
- ⑤ 産業・観光
- ⑥ 地域づくり

2020年の地域貢献活動は新型コロナウイルス感染のため制限された活動状況となり、3件でした。『地域活動論叢 2020』では、課題別に＜子ども・子育て支援と学校教育＞及び＜食と健康＞＜観光と地域活性化＞に分類し（下表参照）、それぞれの1年間の成果と課題をまとめました。本書は、この1年間の学生たちと教職員が地域の皆様とともに歩んだ道のりをコンパクトにまとめたものであります。これらが地域の皆様と私たちにとって共通の宝物となりますことを祈念しております。

表 2020年度に本学で実施された地域貢献活動

<p>＜子ども・子育て支援と学校教育＞</p> <ul style="list-style-type: none">・ 一緒にあそぼう [障害のある子どもとそのきょうだい]・ いぼりの森の《みんな、だぁ～い好き！！》“みんな♪フレアイ隊” [地域の未就園児]・ Zoomで繋ぐ、楽しい音楽あそび [市内幼稚園・保育園園児] <p>＜食と健康＞</p> <ul style="list-style-type: none">・ 実施できませんでした。 <p>＜観光と地域活性化＞</p> <ul style="list-style-type: none">・ 実施できませんでした。

注) [] 内は協働のパートナーあるいは支援の対象です。

1. 企画名：一緒にあそぼう
2. 団体名：チャレンジ
3. 企画代表者 西南女学院大学保健福祉学部福祉学科 山本 佳代子
4. 概要

(1) 目的

障害のある子どもときょうだい、その家族を対象とし余暇活動支援を行う。さまざまなレクリエーション活動を通し、子どもたちが楽しく体を動かしながら多様な動きを身につけること、仲間と体験を共有し、一緒に遊ぶ楽しさを知ることを目的とする。またスタッフとして参加する学生は、子どもたちとの関わりを通し、障害についての理解を深めること、場面に応じた声かけや関わり方、プログラムの企画や実践の方法について学ぶことを目的とする。

- ①対象：障害のある子どもときょうだい、その家族
- ②内容：体育館でのレクリエーション活動・水泳活動・食育活動・野外活動
(デイキャンプや動物園など)
- ③活動場所：西南女学院大学第二体育館・障害者スポーツセンター（アレアス）・足立青少年の家
グリーンパーク

(2) 実施日時・場所・参加者数・実施内容

今年はコロナ禍の影響で、グリーンパークでのサツマイモの収穫のみ実施。オンラインでスタッフ会議、テーマ「今できること」について意見交換し、「子ども達と一緒に作るカレンダー」を製作中。

(3) インシデントの有無

なし

5. 評価

なし。

6. 決算

西南女学院大学地域貢献活動助成金・子どもゆめ基金による



1. 企画名 **いぼりの森《みんな、だぁ～い好き！！》**
みんな♪フレイ隊

2. 主催者名 北九州市立井堀市民センター

3. 企画代表者 短期大学部保育科 藤田稔子

4. 概要

(1) 活動の概要と目的

毎年、校区内にある北九州市立井堀市民センターで月1回、0・1・2歳のお子さんと保護者を対象に子育て支援活動を月に1回のペースで続け、今年で5年目になります。

4月からの年間スケジュールを立てましたが、相次ぐ新型コロナウイルス感染拡大防止対策による活動の自粛で、本来の活動ができない間、学生達の発案により「お家で楽しむ“あそび”をご紹介」するための動画配信に切り替え、活動を継続しました。

動画配信は、保育科2年生のゼミ活動として藤田ゼミに所属する5名の学生達の発案により、5月31日にチャンネル開設しました。内容は、エプロンシアターによるお話し会、親子で踊れる易しいダンス、簡単なおもちゃ作りの紹介等です。学生がオンラインミーティングで内容を話し合い、各自が自宅で教材を作成、撮影、編集をおこない配信していきます。

動画配信は以下のことを目的にしています。

自粛生活の中において…

- ① 子ども達の発達への刺激に
- ② 保護者の方へあそびのネタ提供
- ③ 市民センターでの活動のお誘い



(2) 内容

① 市民センターでの活動

開催日：2020年10月22日

テーマ：いもほり

内容：段ボールで作ったトラックに乗って、いもほりに出かけます。いもを掘って、またトラックに乗って運びます。いもをアルミホイルに巻いて、焚火に入れて焼き芋にします。最後はみんなで食べる…というごっこあそび。すべて学生達の手作りです。

2020年度 いぼりの森の「みんな、だぁ～い好き！！」 <井堀市民センター>				
みんな♪あそび隊 年間予定表				
子育てサポート、子育てボランティア 担当				
月	開催日	テーマ	内容	
通年	第1 水曜日	10時～11時30分		
第1回	4月 4日(月)	秋の味！ 芋	チューリップのコンパニイ	
第2回	5月 5日(火)	あそび		
第3回	6月 6日(水)	おうちでダンス	あそびダンス	
第4回	7月 7日(木)	七夕祭り	かんざし作り	
第5回	8月 8日(金)	アコースティック	夏祭りクイズ	
第6回	9月 9日(土)	おとぎ話 大昔の物語	おとぎ話	
第7回	10月 10日(日)	おとぎ話の続き	おとぎ話、おとぎ話	
第8回	11月 11日(月)	おとぎ話の続き	おとぎ話	
第9回	12月 12日(火)	クリスマス		
第10回	1月 1日(水)	リズム体操	数字リズム体操	
第11回	2月 2日(木)	餅	餅作り	
第12回	3月 3日(金)	ひな祭り		

みんな♪フレイ隊 年間予定表				
短期大学部短期大学部 学生団体(藤田ゼミ)				
月	開催日	テーマ	内容	
通年	第4 水曜日	9時20分～10時		
第1回	4月 4日(月)	アコースティックの音	甘いあそび	
第2回	5月 5日(火)	おとぎ話の続き	おとぎ話	
第3回	6月 6日(水)	おとぎ話の続き	あそびダンス	
第4回	7月 7日(木)	おとぎ話の続き	おとぎ話	
第5回	8月 8日(金)	おとぎ話の続き	おとぎ話	
第6回	9月 9日(土)	おとぎ話の続き	おとぎ話	
第7回	10月 10日(日)	おとぎ話の続き	おとぎ話	
第8回	11月 11日(月)	おとぎ話の続き	おとぎ話	
第9回	12月 12日(火)	クリスマス	クリスマス	
第10回	1月 1日(水)	おとぎ話の続き	おとぎ話	
第11回	2月 2日(木)	おとぎ話の続き	おとぎ話	
第12回	3月 3日(金)	おとぎ話の続き	おとぎ話	



幻の年間計画

② YouTube 配信「ねんこねこキッズちゃんねる」



「ねんこねこキッズちゃんねる」

https://www.youtube.com/channel/UC7bG8U5l2U_MnT3v0linaqw

5. 振り返り

① 学生達の発想転換

4月の活動に向けて2月から計画を立て、3月には「コスチューム」作成をするために生地購入の日程まで決めていました。しかし、新型コロナウイルス感染が拡大していく中、容易に集まることもできず、とうとう市民センター自体が活動中止となりました。今年度の活動をあきらめかけていた時、学生達から「子ども達はどのように過ごしているんだろう」「暇なのではないかな?」「お母さんたち、困ってないかな」という呟きがありました。この呟きから、この状況下でできることを模索することになりました。キーワードは「在宅」です。そして思いついた方法は「YouTube 配信」でした。

② 考える力・学ぶ力

YouTube で一般公開することにあたって、「著作権」のこと、「プライバシー保護」のこと等、動画内容以外のことにも丁寧に対応していきました。特に、学生達の「考える力」で1番感心したことは「マスク着用」です。この「マスク着用」には2つの想いが込められています。1つ目は、自分達の身を護るため。2つ目は、マスク着用を子ども達に馴染んでもらうため。

動画を作成するにあたり、毎回、全員で動画を精査し、振り返りの会を開いていました。例えば、手元を映す角度の工夫や声の出し方、マスクをしている状況でいかに表情豊かにするか、等、今までの活動では考えなかったことを話し合っ、次の動画に活かしていました。

これから先、いわゆる生活様式が変化する中、その時その時の状況に合わせた対応をしなければならぬ、そして、社会から求められているということを受け止められる、そのようなトレーニングになったと、新聞社の取材に応じた時の学生達のお話で知ることができました。

③動画編集の技術

配信を開始した当初、声の大きさ等調整が必要でしたが、徐々に学生自身が編集できるようになり、教員はただアップロードするだけでいい状態にまで成長しました。

他学科に比べパソコン機器の取り扱いに苦手意識が強い保育学生です。今、保育現場でもIT 技術を駆使して様々な対応をしています。この活動で培った技術は、今後の保育現場でも活用できると期待をしています。

6. 活動経費

市民センターでの活動の準備として、地域連携室助成金から支出していただきました。

「猫ダンス」のコスチュームの生地代	¥ 14,762
パネルシアター材料費	¥ 20,470

7. 今後の課題

今回の YouTube 配信は、口コミだけの広報でした。次年度も例年通りの活動が困難な状況であると認識しています。次年度のゼミ生の意向次第ですが、YouTube 配信を継続するならば、よりたくさんの方々に見ていただくために、どのように宣伝していくべきか考えていく必要があります。

8. お礼

活動自粛の期間や内容が二転三転する中、臨機応変に対応をしていただき、感染症対策の詳細について話を重ねてくださいました井堀市民センターの皆さまに心から感謝申し上げます。

また、感染対策に関する書類提出にあたっては、地域連携室の諸先生方にご助言をいただきましたおかげで、無事に1回でしたが開催できました。心からお礼申し上げます。

そして、「ねんこねこキッズちゃんねる」をいつも応援していただき、視聴くださいました学内の教職員のみなさまをはじめ、見てくださった全ての人に感謝いたしております！

【備考1】以下の取材を受けました。

☆朝日新聞（2020年6月23日）

☆てくてく北九州（2020年9月6日）

Thanks a million♡



【備考2】添付資料

2020年度 いほりの森の「みんな!だぁ～いすき!」 <<井堀市民センター>>				
みんな♪あそび隊 年間予定表				
子育てサポーター、子育てボランティア 担当				
通年 第1 水曜日 10時～11時30分				
月	開催日	テーマ	内容	
第1回	4月 4月1日(水)	初めまして!!	チューリップでこんにちは!	
第2回	5月 5月6日(水)	休 み		
第3回	6月 6月3日(水)	もうすぐオリンピック	応援グッズ作り	
第4回	7月 7月1日(水)	七夕作り	たんざく作り	
第5回	8月 8月5日(水)	フリースペース	夏休みフリー	
第6回	9月 9月2日(水)	こんなに大きくなりました	手型、足型	
第7回	10月 10月7日(水)	あの感動をもう一度	部外講師、親子体操	
第8回	11月 11月4日(水)	手作り音楽会	楽器作り	
第9回	12月 12月2日(水)	クリスマス		
第10回	1月 1月6日(水)	リズム体操	親子リズム体操	
第11回	2月 2月3日(水)	節 分	鬼たいじ	
第12回	3月 3月3日(水)	ひなまつり		
★ 第1水曜日は、「子育て相談」も併せて実施しています。				
みんな♪フレアイ隊 年間予定表				
西南女学院大学短期大学部 学生担当(藤田ゼミ)				
通年 第4 木曜日 9時20分～10時				
月	開催日	テーマ	内容	
第1回	4月 4月23日(木)	アイスクリームの日	せいさくあそび	
第2回	5月 5月28日(木)	ゴルフの日(5/28)	うんどうあそび	
第3回	6月 6月25日(木)	うどんの日(7/?)	おみせやさんごっこ	
第4回	7月 7月23日(木)	祝日(海の日)		
第5回	8月 8月27日(木)	やさいの日(8/31)	おはなしかい	
第6回	9月 9月24日(木)	休 み		
第7回	10月 10月22日(木)	休 み		
第8回	11月 11月26日(木)	おんせんの日	ふれあいあそび	
第9回	12月 12月24日(木)	クリスマスの前日(12/24)	クリスマスのお祝い	
第10回	1月 1月28日(木)	スキーの日(1/1?)	せいさくあそび	
第11回	2月 2月25日(木)	休 み		
第12回	3月 3月25日(木)	休 み		
★ 第4木曜日は、朝が早いですが、ぜひお越しください。				

幻の年間計画

市民センター 一覧

生活環境 パトロール

子育てマップ 北九州

井堀市民センター

〒803-0835
北九州市小倉北区井堀3丁目15番2号

TEL 093-592-1170
FAX 093-592-1178

開館時間
平日：09:00～22:00
土曜：09:00～17:00

休館日：日曜日
国民の祝日に関する法律に規定する休日
年末年始 (12/29～1/3)

子育てフリースペース「いほりの森 みんなだぁ～いすき!」

「2020年度子育てフリースペース」
お待たせいたしました!
「みんな♪フレアイ隊」を再開いたします。
第4木曜日 9:20～10:00
1/28(木) 中止になりました
予約制となっておりますので、592-1170までお電話下さい。

「2019年度子育てフリースペース」
★「みんな♪あそび隊」
4月～3月 第1水曜 10:00～11:30
※5・1月祝日の為 お休み
(子育てサポーター・子育てボランティアによる遊び)
★第1水曜は10:00～11:30まで、保健師・看護師さんによる子育て相談を実施します。

★「みんな♪フレアイ隊」
4月～1月 第4木曜 9:20～10:00
※9・10・2・3月学生が学校行事等 お休み
(西南女学院大学短期大学部保育科による遊び)

いろいろな企画がありますので、是非ご参加ください!



井堀市民センターのホームページ
「こんな風にご紹介いただいています♪」

1. 企画名 **zoom で繋ぐ、楽しい音楽あそび**

2. 主催者名 こども音楽療育実習

3. 企画代表者 短期大学部保育科 末成妙子

4. 概要

(1) 活動の概要と目的

保育科では、保育士資格・幼稚園教諭 2 種免許以外に複数の認定資格が取得できるようカリキュラムが準備されています。西南女学院の保育は歴史が長く、特に音楽には地域の保育現場から高い評価を受けています。音楽に強い本学は、近隣の養成校との差別化をはかるためにも、他校ではできない、質の高い「音楽」のスキルを持った保育職を育成するために「こども音楽療育士」を取得できるようにしています。この認定資格を取得する上で必修となる科目のうち「こども音楽療育実習」は、実際に子ども達との触れ合いの中、音楽を用いた関わりを実習として位置付けています。

昨年度は、地域貢献活動としてまた、西南女学院 100 周年イベントとして地域の皆様をお招きして演奏会「小さな森の音楽会」を開催しました。今年度は、残念ながら実際に触れ合った実施することが困難であるため、遠隔会議システム zoom を保育現場・学生達の自宅・大学と結んで LIVE で音楽を用いた「音楽会」を開催することにしました。

特に今年度は、コロナ禍での様々な制限がかかる中でも、子ども達も、そして企画する学生達にとっても、楽しく、刺激ある活動ができるように心がけました。またこの試みが、今後、新たな生活様式が当たり前になる世の中において、実際の保育現場の中で授業が展開するという保育現場と学校現場の双方が学びあえる新たなスタイルを見出すことにもつながることを祈願しています。

(2) 開催日、内容

全ての回で、遠隔会議システム zoom を用いた LIVE 演奏会を実施。演奏は、事前に学生達が自宅で撮影した動画を「リモート演奏」として編集し、zoom での画面切り替えによって演奏を配信しました。

全 3 回の内容は以下の通りです。

A 『音楽でクッキング』

日時：2020 年 12 月 11 日（金） 10：10～10：40

対象：あかつき幼稚園

内容：『大阪うまいものうた』の手あそび・福岡の名産シルエットクイズ・
『福岡美味しいものうた（替え歌）』：『大阪風お好み焼き』

B 『赤鼻のトナカイ』

日時：2020 年 12 月 18 日（金） 10：00～10：30

対象：認定こども園 槻田杉の実保育園

内容：『赤鼻のトナカイ ルドルフ』のお話し・クリスマスにまつわるクイズ・
『赤鼻のトナカイ』の歌とダンス

C 『動物たちの音楽会』

日時：2021年1月8日（金） 10：00～10：30

対象：北九州市戸畑民生事業協会 中原保育園

内容：『山のワルツ』・『山の音楽家』・楽器シルエットクイズ

5. 振り返り

① 参加園の多大な協力体制

今回、参加を依頼した園は、「すでにネット環境が整っている、もしくは、整えていただける可能性が高い」「本企画に関連する技術を持っている、もしくは、興味関心が高い」ことが絶対的条件でした。園行事等ですでに保護者限定の YouTube 配信を積極的に行っている等実績があり、企画を進めるにあたっても様々な助言をいただくことができました。また、まだネット環境がそれほど整っていない園においては、独自で整備してくれました。

② 学生達のチームワーク

後期授業が途中から遠隔授業となり、本科目の特性上、対面でおこなうリスクが高いため、常に授業で用いる Google meet と本番で用いる zoom を用途に応じて使い分け、お昼休みや空き時間等にミーティング、リハーサルを重ねました。実際に近くにいる感覚的に支えあって行える状況ではないため、事前の打ち合わせが不可欠であり、そのことを学生達自身十分と把握し、本番直前まで緊張感をもって臨んでいました。その成果は、学生達の達成感にあらわれていました。

③ 「コロナ禍」だったからこそ

1月8日は、前日からの風雪により交通機関に影響が出ている状況でした。しかし、保育園は通常通り園児が登園してきます。そのような中、本来ならば実施不可能である天候による影響も今回は全く支障なく実施できました。これは、この状況下（コロナ禍）であったからこそ生まれた方法です。また、開始しばらく園児達は「ぼかーん」と見ているだけでしたが、徐々に学生達からの問いかけに答えるようになり双方向が実現しました。テレビしか馴染みのない子どもたちの新たなメディア活用を「コロナ禍」は生み出したのではないのでしょうか。

④ 保育現場と養成校の連携

今回の試みは、養成校→園→家庭を繋ぐことができたとも言えます。保護者達は、養成校ではどのようなことをしているのか、そして、その結果自分達の子どもの先生になっているのだ、ということ垣間見ることができました。また、今回の配信後、園では引き続きその時の歌や手あそびが継続されたと聞きました。教育の継続、そして保育の継続がそれぞれの立場でなされたと実感しています。

⑤ 今後の可能性

Zoom を用いることで、ネット環境さえ整っていれば安価に、そして、たくさんの園と同時に活動できる可能性を持っているといえます。また、今まで在宅にいた未就園児や集団保育を受けられない障害を持った子ども達へも保育を受ける機会が広がります。本活動の可能性は限りなく大きいと思っています。

6. 活動経費

各園のご協力により大学の経費は¥0 です。

7. お礼

今回の盛会は、各園の本企画に対するご理解ご協力が大きいと感謝しています。また、学生達の発想の豊かさ、子ども達への想いから発する努力のおかげで内容の濃い音楽会になりました。この企画に関わりました皆様にお礼申し上げます。

【添付資料】





👉 Zoom の実際の画面

Zoom の操作は学生達自身で行いました。
 ・園への zoom への招待
 ・ppt や動画の画面切り替え
 ・名前標記の変更 等
 😊 今までパソコンが「苦手！な保育科」
 が色々できるようになりました♡



👉 園の様子（保護者へ配信された限定 YouTube より）

2020年度地域連携室の取り組み

1. 後期北九州市民カレッジの開講

(1) 高等教育機関提携コース

1) 概要

本学では、昨年度より地域の皆様の多様な学習ニーズに対応した生涯学習機会を提供し、自己実現の促進を図ることを目的に「令和2年度後期北九州市民カレッジ」(11月10日～12月15日の6日間の計6回)の開講に向け準備をした。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大により、本学においても授業をはじめ全ての学事を対面で行うことが不可能となったため、やむを得ず中止した。

2) 全体テーマ

『共に生きる』

3) 各講座のテーマ

第1回：「ピンチの時こそ国際感覚を大切に！」

担当：人文学部英語学科 講師 ブラウン馬本鈴子

内容：コロナ禍では、色々な情報が拡散し、各自の判断力が色々な局面で試されています。有事の際にどのような価値観を大切にするか、人文学的に考察してみます。

第2回：「異文化を通して日本文化を学ぶ」

担当：人文学部観光文化学科 教授 神崎明坤

内容：独自の特徴を持つ日本文化を再度確認しながら新しいものを学びましょう「温故而知新」。

第3回：「心を豊かに刺激する絵本の世界」

担当：短期大学部保育科 講師 池田佐輪子

内容：簡単な手遊びやゲームも交えて脳も刺激しながら、1960年代より読み継がれている絵本から最近の絵本まで、絵本の世界を解説していきます。

第4回：「1人でできる英会話学習法」

担当：人文学部英語学科 教授 大谷浩

内容：「人文学」の研究や勉強はコロナ禍の中でも比較的支障なく進められる部分があります。本講座では語学の独習について考えてみたいと思います。

第5回：「With Corona 時代の消費について」

担当：人文学部観光文化学科 准教授 高橋幸夫

内容：新型コロナウイルス感染症拡大によって未曾有の状況の中私たちの消費はどのように変化せざるを得ないのか、最新の消費動向、企業動向データにより読み解きます。

第6回：「音楽と私たち」

担当：短期大学部保育科 教授 末成妙子

内容：幼稚園や保育所に通う子どもたちにとって、音楽は毎日の生活になくてはならないものです。私たちにとって、今、音楽はどんな楽しさをもたらしてくれるのでしょうか。

(2) 大学連携リレー講座

1) 概要

北九州市民カレッジにおいて、あらかじめ設定した「共通テーマ」に対し、大学の専門性や特性を活かした講座企画を募集し、複数の大学による連携講座を実施している。本学から1名が毎年講師として参加している。

2) 全体テーマ

『メディアと私たちのよりよい関係づくり』

3) 担当講師

人文学部観光文化学科 准教授 池口 功晃

4) 講座テーマ

観光におけるメディアの役割とその変容

5) 内容

一昔前までは、雑誌や旅行ガイドが観光の主たる情報源だった。しかし、インターネットの出現以来、次々と生まれる情報技術はメディア本来の役割を飛び越え、私たちの観光そのものを大きく変えようとしている。本講座では観光とメディアの変遷について説明し、次にこれからの観光について紹介した。一つは、VR（仮想現実）やMR（複合現実）といったテクノロジーを活用した観光、もう一つはアニメ聖地巡礼のように個々人がコミットの度合いを考える観光が共存する時代になるであろう。



2. 女性活躍ワーキンググループの取り組み

(1) 西南女学院卒業生のパネル作製

昨年と同様に、国内外で活躍している卒業生に学生時代の思い出や現役学生へのメッセージをパネルしたものを作製した。これらのパネルは毎年行われるクリスマス礼拝の会場となるアルモニーサンク北九州ソレイユホールのロビーやその他行事・イベントで展示する予定である。



3. フードドライブキャンペーンの実施

このキャンペーンは、NPO 法人フードバンク北九州ライフアゲインが、食品ロスや子どもの貧困について普及啓発を図るために行っている。家庭で賞味期限内に消費できない食品を回収して、必要な方にお渡しする活動であり、本学は食品回収ボックス設置場所のひとつとして、2017年度より実施している。

2020年度の開催は下記のとおり。

第1回 2020年7月6日(月)～7月17日(金)

第2回 2021年1月25日(月)～1月29日(金)

募集チラシ

後援：北九州府

ご家庭に眠っている食品大募集

市内一斉フードドライブキャンペーン
令和2年7/6(月)～7/19(日)

フードドライブってなに？
ご家庭に眠っている賞味期限内の食品、消費できない食品(賞味期限切れ、自家製食品、ひとり寝食、子ども食料など)をお渡しする活動です。

受け付けている食品は？
*賞味期限の記載があり、期限が1か月以上あるもの(缶詰、乾めん、缶詰、いりもち、インスタント、お菓子の缶)。
*未開封で、賞味期限のないもの。
*アルコール類・野菜等は受け付けておりません。
※肉類、生肉は受け付けていません。冷蔵食品は冷蔵ボックスです。

回収ボックス設置場所(休日は回収も休みます)

1. 小瀬町センター	(受付時間) 13:00～17:00
2. 北九州中央センター	(受付時間) 10:00～17:00
3. 西宮町センター(新橋)	10:00～17:00
4. 西宮町センター(東山)	10:00～17:00
5. 西宮町センター(西山)	10:00～17:00
6. 西宮町センター(南山)	10:00～17:00
7. 西宮町センター(北山)	10:00～17:00

お問い合わせは7/13(月)～7/19(日)に実施します。
お問い合わせ先：フードバンク北九州ライフアゲイン TEL: 093-863-8751

後援：北九州府

食べものを、いのちを、捨てないで

つながります
市内一斉フードドライブキャンペーン
期間：令和3年1/25(月)～1/31(日)

回収ボックス設置場所(休日は回収も休みます)

- 市役所センター：北九州市民センター(西地区)、北九州市民センター(東地区)、北九州市民センター(南地区)
- エコーポ：大宮店(門司区)、北九州店(門司区)、新橋店、東山地区(川崎地区)、西山地区
- その他：北九州府環境ミュージアム(川崎地区)、西南女学院大学(川崎地区)、フードバンク北九州ライフアゲイン(川崎地区、新橋)

※フードドライブは食品ロス削減のため、実施期によって1日に回収できる場合があります。回収期間は、フードバンク北九州ライフアゲインホームページにてご確認ください。

受け付けている食品は？
*賞味期限の記載があり、期限が1か月以上あるもの(缶詰、乾めん、缶詰、いりもち、インスタント、お菓子の缶)。
*未開封で、賞味期限のないもの。
*アルコール類・野菜等は受け付けておりません。
※肉類、生肉は受け付けていません。冷蔵食品は冷蔵ボックスです。

学内案内板

ご家庭に眠っている食品ありませんか？

フードドライブキャンペーン

1月25日(月)～29日(金)

収集場所：6号館1階・産科講義前
ご寄付いただきたい食品：お米、乾麺、缶詰、缶詰、レトルト、インスタント、お菓子など

※賞味期限が1か月以上あるもので、未開封のもの、冷蔵食品は冷蔵ボックスにて回収いたします。
アルコール類、野菜等は受け付けておりません。



2020年7月寄付品



2021年1月寄付品

4. 北九州 SDGs クラブの登録

4月に「北九州市 SDGs クラブ」に登録した。このクラブは北九州市が SDGs の達成に向け、多様なステークホルダーの交流・マッチングを促進するために2018年に創設したクラブである。

5. 広報活動

地域連携室ブログや、毎月の地域貢献活動をお知らせするポスターで、学内外への広報を積極的に行った。

ブログ更新 32件 (2020年2月～2021年1月末現在)



～*～*～*～*～* 取材裏話 *～*～*～*～*～*～*

(1) 西日本新聞てくてく北九州からの取材について

オンラインを活用した新しい教育の挑戦として、英語学科 KANAME 杯英語スピーチコンテストのオンライン開催、保育科藤田ゼミの動画サイト、YouTube チャペルの3つの取り組み記事が、9月6日発行の西日本新聞てくてく北九州に掲載されました。

てくてく北九州ライターで本学の卒業生の加藤美砂さんから取材を受けました。担当の先生方はそれぞれの取り組みへの思いやどのようなことを大切にしているかなど熱く語っていただきました。残念なのは記事の字数が限られていたため、取材された内容がほんの一部だったと

いうことです。

取材当日は真夏の暑い時期でしたが記事用の写真撮影では、正門前で先生方に様々なポーズをとっていただきました。先生方はこのてくてく版の読者だけでなく、当時リモート授業を受けて頑張っている学生たちにエールを送りたいという思いもあり、撮影時に素敵な笑顔を作ってくれたのが印象的でした。また、撮影時の正門前の道路は渋滞で、車中からの運転手の人たちの視線をビシビシと感じましたが楽しい時間でした。ライターに加藤美砂さんには厚く御礼も申し上げます。



(2) 小学生パンフレットの取材について

朝日新聞社から小学生パンフレットの作成について取材を受けました。作成の経緯、これらを小学生にシンプルでわかりやすく説明するにはどうしたらいいかといった苦労話、パンフレットに込めた思いなどを説明しました。

本学の同窓生である大谷芳子室員が取材のなかで自分が高校生の時に見た本学の大学案内パンフレットが他の大学よりも知りたい情報が豊富だったことが入学の決め手になった話をしてくれました。今では、大学ホームページやオープンキャンパスなど情報ツールは増えましたが、学校案内パンフレットも、大学を知る重要な情報の一つであるということを再認識しました。

この記事はデジタル版でも掲載されたため、関東から問い合わせがありました。

現在コロナ禍のため地域貢献活動は中止されており、小学生パンフレットを地元の小学校への配布ができません。ぜひ小学生の皆さんもこのパンフレットを手にとって、大学そして地元にある西南女学院大学を身近に感じてほしいです。朝日新聞の城真弓記者には常日頃お世話になっており、この紙面をもって感謝申し上げます。



新聞記事に見る地域連携室 2020 年度の歩み

～地域連携室の足跡～

『コロナ禍 保育科学生の実践の場消滅 動画作り経験不足補う』

2020年6月23日（火）朝日新聞 朝刊

『オンラインの活用で教育の新しい形を』

2020年9月6日（日）西日本新聞 てくてく北九州

『大学ってこんな感じ』～西南女学院大、小学生へパンフ作成～

2020年10月30日（金）朝日新聞 朝刊

（2020年2月～2021年1月末現在）

「とどけ！ぬくもり要^{かなめ}から」

学生たちが考えた地域貢献活動のキャッチコピーです。

人としてのぬくもりを多くの方々のところに届けたい、本学での学びを自身の「要」とし、地域貢献の「要」となる、このような学生たちの思いが込められています。

要^{かなめ}ちゃん

学生たちが考えた西南女学院大学の公式キャラクターです。

要ちゃんを見たら、西南女学院だと思っただけだと嬉しいです。



2020年度 地域活動論叢

2021年3月31日発行

編集発行 西南女学院大学・西南女学院大学短期大学部
地 域 連 携 室
〒803-0835 北九州市小倉北区井堀1丁目3番5号
電話 093 (583) 5243

印 刷 モリプリンティング株式会社
〒806-0049 北九州市八幡西区穴生3丁目11番5号

西南女学院は 2022 年に
創立 100 周年を迎えます



地域貢献活動キャッチコピー

「とどけ！ぬくもり 要（かなめ）から」



西南女学院大学・西南女学院大学短期大学部 地域連携室

〒803-0835 北九州市小倉北区井堀 1-3-5
chiiki@seinan-jo.ac.jp



地域連携室ブログ